

教科指導の中で行う効果的な学習言語の習得に対する支援について

三重県教育委員会事務局 研修推進課テーマ研修班 研修員 中村 優子

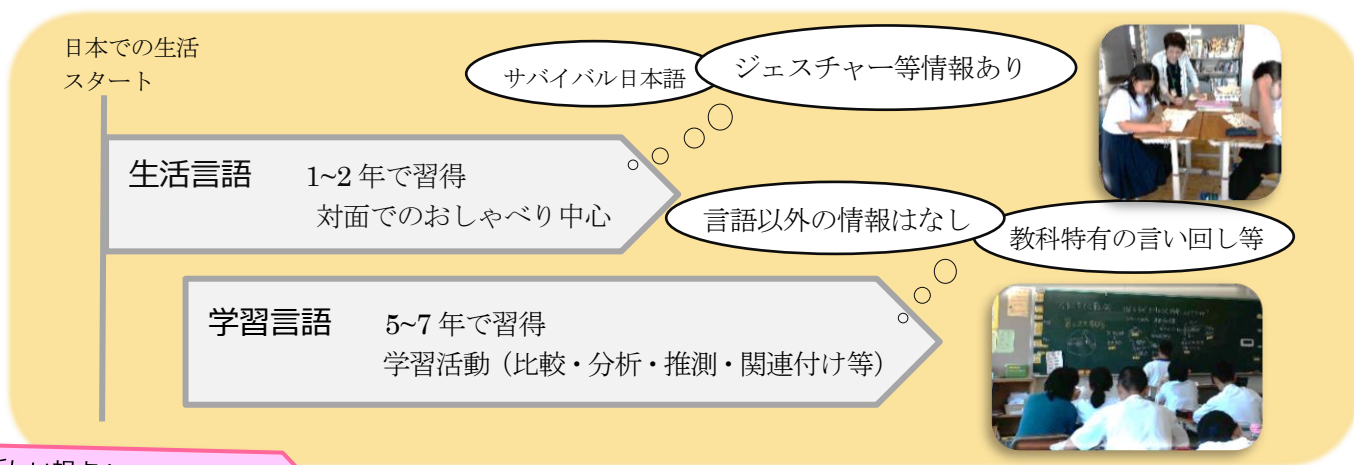
I 研究の目的

外国人児童生徒の教科学習の理解を助け、学習言語の習得を支援することが、一斉授業における困り感を減らし、学力をつけるとともに、学習意欲の向上にもつながることを、先行事例研究及び自らの実践をとおして調査し、その成果と課題について考察する。

II 研究の内容

1 学習言語の習得について

来日直後は、日本の社会や学校に適応するために生活言語が求められ、次いで、日本語で学習活動に参加するために学習言語が必要になる。



新しい視点！
東京学芸大学 齋藤教授より

文化間を移動する子どもたち
国を移動することは、異なる文化に合わせながら生活することになる。その移動によって、学びの連続性が断ち切られるため、それまでの学習と日本での学習を結びつけ、新しい学習活動へ導く。

全人教育としての日本語教育
日本語の学習は日本語の単語や文法を覚えること以上の意味をもつ。
① 社会、学校での生活
② アイデンティティ、自己の形成
③ 学習、認知的な発達
3つの要素を連動させながら日本語を育む。



日本語を学習することは、外国人児童生徒が日本で生活、学習するだけでなく自己実現を支える力となる。その基盤が学校での日本語学習にあるといえる。

2 四日市市立中部中学校の実態把握

実態・方針

四日市市は県内で外国人住民数が最も多く、在籍校の四日市市立中部中学校はアジア圏から来た生徒を中心に受け入れる拠点校になっている。日本語指導を行う教室「ワールド」が設置され、近年は10人強が在籍している。取り出し授業において、適応指導、日本語指導を受けたあとは、入込指導で一斉授業を受ける。

テスト解答分析

ワールド生徒6名の1学期中間から2学期期末の計4回分の定期テストの解答分析を行った。生徒の今までの英語の学習経験について確認しながら、つまずきの問題が日本語学習にある点に着目し、どのような支援が必要なのかを考える材料とした。

(様式4)

3 補助教材の作成・実施

目的

「わかる」という気持ちは、外国人生徒の日本語学習において重要な役割を持つ。生徒らが英語の一斉授業で「わかる」という瞬間が増えるよう、理解支援ができる補助教材を作成した。

重視した点

ワールドに在籍している外国人生徒も多様で、英語がわかる生徒とそうでない生徒がいる。母国もしくは第三の国での英語の学習経験という視点を留意した。



① やさしい日本語付き英語リスト

定期テストの解答分析において、単語を日本語から英語にする問題では、日本語の意味がわからずに、失点が見られた。この初歩的な問題での正答率を上げ、ワールド生徒たちの学習意欲も向上させたいと考え、「単語リスト」を作成した。英単語の横に教科書付属の辞典から引用した品詞と日本語を載せ、さらにその横に、辞典の日本語をやさしい日本語でわかりやすく表記した。また図や絵を使って図式化することで、視覚支援になり、イメージを持たせることに効果的であった。

「授業がわかる」2つの教材

Lesson5 Uluru		
P58,59 GET Part1		
spend	動 (時間や金)を過ごす、使う、費やす	～するの(時間)を過ごす、～を費やすの(金)を使う
coat	名 コート	
glove(s)	名 手袋	
middle	名 真ん中、中間	センター
middle of ~	～の真ん中、～の中ごろ	～のセンター
amazing	形 驚くべき、目を見張らせる	びっくりするような
pretty	形 (小ざくて)かわいい	きれいな、(女性や子どもが)かわいい
dress	名 衣装、ドレス	
P60,61 GET Part2		

② 日本語トレーニングシート

英単語、英文を日本語にする問題では空欄が目立ち、ワールド生徒の日本語を書く力を少しでも伸ばしたいと考えた。日本語の学習段階に応じて活用できるよう、ヒントとして主語と述語を書いておき、生徒が部分的に埋めるだけのパターンと、主語から述語まで生徒自身で日本文を書くパターンの2ステップの構成とした。

日本語トレーニング			
	Class	No.	Name
Lesson	L5 GET Part1	day	date
① How did you spend your time in Australia?			
How [どのように] + 主語[～は、が] + _____ + 述語[～しましたか]			
あなたは、 _____			
どのようにすごしましたか。			
② I had fun.			
主語[～は、が] + _____ + 述語[～しました]			
わたしは、 _____ すごしました。			

III 成果と課題

1 成果

文献研究、資料収集、研修会参加を通して、外国人生徒一人ひとりの生活を考慮して、生活支援と学習支援の双方を考え、日本語教育を実践していく必要があるとわかった。

絵や図を使い、わかりやすい日本語で書いた英単語リストと教科書の英文を日本語に訳す練習を行うワークシートを作成した。この補助教材を使って、実際に取り出し授業や放課後の学習会で指導を行い、支援の多様性に気付くことができた。言語が漢字圏出身の生徒と非漢字圏出身の生徒では支援の方法は異なり、難しい漢字をひらがなで表記しても、すべてのワールド生徒にわかりやすい日本語になる訳ではないとわかった。

支援教材に困っているのは外国人児童生徒受入れ校だけではないため、まずは市内で共有できるように、ホームページで資料をダウンロードできるシステムがあると教科担当の教員や適応指導員も心強いと思った。

2 課題

教材を作成して終わりではなく、教材を活用して行う授業の活動案も作成するべきであった。活動案があれば、取り出し授業や入込指導を担当する教員が変わっても、系統的な日本語指導になると考えたが、今回の調査研究ではそこまで至らなかった。

英語の教科指導では、日本に来る前の英語の学習経験の有無が、大きく影響するため、言語背景を把握し、指導に活かすことが重要である。それに加えて、漢字圏出身か非漢字圏出身なのかという視点も支援方法に大きく影響するとわかった。どの言語で英語を学習していたかも把握しておきたい点である。